

JBDF 今年の1年 - 松本杯はだれの手に?! -

皆さんにとって今年一年はどんな年でしたか? JBDFは、今年も着実に活動を行い多くの社会人ディベーターを育成して参りました。

そして、本日12月18日いよいよ、最も優秀なディベーターに授与される98年の松本杯受賞者が発表されます。対象者もそれ例外の人たちも、これを機にお互いの健闘をたたえ合い、明日への前進の糧へとしていきたいと思ひます。

まずは本年の活動を振り返ってみましょう。(以下敬称略)

- 1 月 度 日本政府は出生率を引き上げる為の奨励策を実施すべきである。
肯定: 加藤宏 否定: 小林幹夫・佐藤孝子 9対0: 肯定側

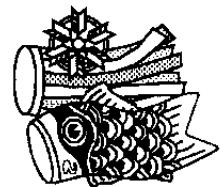
- 2 月 度 Japan should adopt policies to encourage people to have more babies.
肯定: 加藤亨・塩島みゆき 否定: 川俣洋史・渡辺起里 5対5: 引き分け

- 3 月 度 日本は積極的に安楽死を法的に認めるべきである。
肯定: 川俣洋史・渡辺起里 否定: 加藤宏・加藤亨 5対12: 否定側



- ◇ 3月21日 JDA日本語ディベート大会 論題同上
川俣さん、渡辺起里さんペアが参加 JICA加藤宏チームが優勝を勝ち獲る。

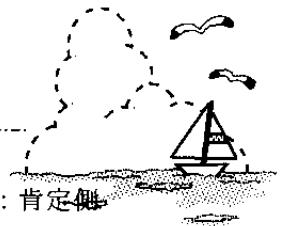
- ◆ 4 月 度 特別プログラム - Parliamentary Debate に関する講義とデモ
ジェイソン・ガトリーブさん、マイク・ルベツキーさん他2名
「This house believes that dirty laundry should not be aired」



- 5 月 度 日本は盗聴を刑事捜査の方法として合法化すべし。
肯定: 黒川洋一郎・山口和弘 否定: 川俣洋史・堤征秀 5対14: 否定側

- 6 月 度 Japan should offer significant tax cuts to its citizens with three children or more.
肯定: 小林幹夫・柿岡俊一 否定: 川俣洋史・塩島みゆき 9対9: 引き分け

- ◇ 6月27日 デイリーヨミウリ英語ディベート大会 論題同上
川俣、塩島ペア、山口、渡辺ペア、小林、柿岡ペアが参加
JICA加藤宏チームがまたまた優勝!



- 7 月 度 日本は飛び級制度を積極的に導入すべきである。
肯定: 佐々木美緒・加藤亨 否定: 里村利光・井本美子 13対6: 肯定側

- 8 月 度 Japan should significantly reduce the progressiveness in the rates of direct taxes imposed on individuals.
肯定: 中山奈津紀・川俣洋史 否定: 佐々木美緒・柿岡俊一 14対8: 肯定側

- ◆ 9月19、20日 藤沢市 KKR片瀬 ニュー向洋 にて 夏合宿開催

- 10 月 度 Japan should significantly reduce the progressiveness of the income tax rate.
肯定: 塩島みゆき・里村利光 否定: 井本美子・渡辺徹 1対13: 否定側

- 11 月 度 日本は、個人の所得税の累進性を大幅に緩和すべきである。
肯定: 金内美奈枝・加藤宏 否定: 井本美子・堤征秀 0対17: 否定側

- 12 月 度 小学校での必修科目の量を大幅に減らすべし。
肯定: 花井寿六・取出恭彦 否定: 山口和弘・塩島みゆき 勝敗はいかに?



さて、松本杯は誰の手に？ 次回のニューズレターは受賞者の直撃インタビューを掲載いたします。

今年の新会員を代表して、佐藤孝子さんに入会に到るまでのお話を寄稿していただきました。

ディベートへの興味－『頭を鍛えるディベート入門』に出会って－

佐藤 孝子

私がディベートを具体的に知ったのは、松本茂先生の『頭を鍛えるディベート入門』を読んだのがきっかけでした。最初の方に「〇〇小学校は校庭を土に換える」という議論について書いてありました。私は直感的に校庭は当然土だろうと思いました。しかし、その私の考えは、その後に出てくる「未熟な議論しかできない人」とまったく同じであったのです。これは私にとって大きな驚きでした。

そこで自分の今までを振り返ると、私は意見を言うとき、直感的に考え、感情が先走り、相手に自分の考えを伝えたり理解してもらおうのがへただということに気がきました。また、その場の雰囲気にもまれたり、相手の勢いや押しの強さに負けてしまい、こう言えばよかった、ああやればよかったと後悔することがよくあります。これらは私の性格であり、特に意識していないことでした。

しかし、松本先生の本の中に出てくる「論理的、建設的な発想」によって「感情、直感をどうすれば説得力のある理由に変えられるか」という箇所は、まるで私に必要なことを指摘されたように感じました。

さらに、物事に対して「逆転の発想」を含め多角的視点でとらえ、問題を掘り下げて（ディベート的思考）、理論的に相手を説得する（ディベート的説得）訓練が私には必要だと思いました。

また、この本を読んで、私の日頃の英語レッスンでの不満の原因もわかりました。

私が受講しているのは、新聞、雑誌の記事を題材に、例えば、「イギリスでのきつね狩り禁止」、「日本の首都移転の問題」等の記事を読んだ後、自分の意見を述べて意見交換するフリーカンパセッションです。そういったレッスンにいつも物足りなさを感じており、どうしたらよいのか自分でもわかりませんでした。その解決策の一つがディベート形式のレッスンではないかと思い始めました。ディベートを実践すれば、上辺だけでなくもっと建設的な議論ができ、楽しいに違いありません。英語の勉強の壁にあたったときは、ディベート学習が有効である聞いておりますが、まさにその通りだと思います。

松本先生が「英語を母国語にしない人間がアメリカの大学生にディベートコーチをするというのは、はじめおかしい気がしたが、言語の問題ではなくディベートとは何か、どうやって上達させるかを知っている私を大学側はディベートコーチとして雇ったことは、極めて理にかなったことだと思いました。」とおっしゃっていましたが、それならば、英語ディベート大会で日本人チームが外国人チームを負かすことができるのも納得がいきます。言語のうまさより、テーマに対する考え方が大事だということでしょう。

自分の英語スピーキング能力をいかにネイティブに近づけるかという努力と同時に、言語として伝達ツールとして英語を見るならば、物事に対する捉え方、掘り下げ方を重視し、より良くコミュニケーションできる方に意識を持っていくことのできるディベートは、学習者の新たなアプローチであると思います。

以上は、私がディベートに興味を持ったきっかけです。その後、JBDFに参加し、勉強させていただいておりますが、今だにディベートという「ゲーム」のやり方を把握できず、ディベート的思考・説得も体得できていません。しかし、今後もJBDFの活動を通じて努力していきたいと思っております。



佐藤さんありがとうございました。来年はディベーターとしてじゃんじゃん活躍して下さいね(^。^)

■ 1月例会

日時：1月22日（金）19：00～
（第3週（15日）は祝日のため）

内容：日本語ディベート
場所：新橋福祉会館

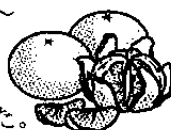
■ 2月例会

日時：2月19日（金）19：00～
内容：日本語ディベート

場所：新橋福祉会館

★ JBDF ホームページがオープンしました。

URLは <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/3902>



たずねびと



氏名：まつもとしげる
職業：大学のせんせい
特徴：身長160センチぐらい
ぬいぐるみを着ている（わけではない）、ラーメン3杯は食べれる

連絡は JBDF 広報まで